

第2回 斐伊川水系河川整備アドバイザー会議 議事録（概要版）

日 時：平成29年3月6日（木） 14:30～15:45

場 所：ニューウェルシティ出雲2F 銀河

1. 開会

- ・アドバイザー会議が開会され、事務局が進行を行った。

2. あいさつ

- ・国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所柴田所長があいさつを行った。

3. 規約(案)について

- ・事務局より、規約(案)について説明され、委員の了承を得た。
- ・委員の互選により、杓見委員が委員長に選出された。

4. 斐伊川水系河川整備計画【国管理区間】の進捗状況報告について

- ・事務局より、斐伊川水系河川整備計画【国管理区間】の進捗状況が報告された。

5. 質疑〈主な意見・質問〉

（大橋川改修）

・（委員）大橋川の拡幅、堤防の整備を進めているが、シジミ等の水産生物にできるだけ影響のないよう進めてもらいたい。また、全体のモニタリングは実施されていると思うが、工事箇所においても事前調査・工事中の調査・工事後の調査等、モニタリングを実施してもらいたい。

・（委員）拡幅部になっている白濁のところは平成18年洪水で浸水しておらず、中世から発展してきた町である。河川整備にあたっては、歴史を踏まえた特色ある整備を進めてもらいたい。

・（委員）景観・環境について、大橋川は対応策が考えられているが、注目されていない場所についても十分な配慮が必要である。

（中海湖岸堤）

・（委員）昨年度の高潮によって、大海崎が浸水したとのことだが、災害が発生したところは優先的に工事を行うことも考えているのか。

→大海崎は、現在の優先度は中期箇所になっており、現在は短中期箇所に着手したところ

であるが、浸水被害を鑑みて、優先度を上げて整備していきたいと考えている。

(浅場整備・覆砂)

・(委員) 宍道湖は浅場整備のみの記載となっているが、浅場整備と覆砂は本来対になって効果がでるものであり、宍道湖についても中海と同様に覆砂も合わせて行っていくことが重要と考えている。また、「浅場整備」と「覆砂」の使い分けについて、言葉の定義を整理して頂きたい。

→「浅場整備」と「覆砂」の使い分けについては明確な定義をしていないことから、今後、わかりやすく整理をしていく。宍道湖での覆砂の実施については、沿岸環境検討会でも同様の指摘をうけており、今後の事業展開として検討を進めていきたい。

・(委員) 浅場整備を行うことにより、波は抑制されるが、その分のエネルギーは底面へ移るため、細かい砂が巻き上げられ、濁度が高くなることもある。このため、「波が小さくなって透明度が向上する」という表現は限られた条件でのものであるため、表現の見直しが必要である。また、国土交通省として、良好な浅場環境に関する定義をもっているのか確認したい。

→ご指摘頂いたとおり、細粒分が巻き上がり透明度が低下している箇所もある。箇所の状況を踏まえて適切に評価していきたい。また、良好な浅場環境の定義については、個々には議論を進めているが、総合的な評価には至っておらず、今後も助言を頂きながら整理していきたい。

・(委員) 浅場整備に関しては、整備箇所の局所的な評価だけでなく、周辺も含めた幅広い評価を行うことで、事業効果をよりの確に評価できると考えている。

→浅場整備は全体的な環境を良くするために実施しているものであるため、ご指摘を踏まえて、さらに検討をすすめていきたい。

・(委員) 覆砂に使用する砂はどこから持ってきているか確認したい。放水路にたまっている土砂等を利用することにより、生態系への影響を緩和するとともに、コスト縮減にも繋がると考えている。

→宍道湖については、斐伊川河口の維持掘削で得られた土砂を有効利用している。中海は運搬距離が長いため、山砂やHi ビーズを使用している。

(河川環境の現状と課題)

・(委員) 平成 22 年から 24 年にかけてアオコが大量発生しているが、その原因は把握できているか。

→塩分や日照時間等との関係は整理できている部分もあるが、明確なメカニズムは現時点

で把握できておらず、引き続き、県等の関係機関と連携して発生機構の解明に努めてまいりたい。

(神戸川拡幅部の地盤沈下、斐伊川の河床低下)

・(委員) 神戸川拡幅部の地盤沈下について、周辺民地に具体的にどのような影響がでてくるか。

→不等沈下により、扉の開閉に影響が出たり、用水路が流れにくくなったりしている。状況を把握しながら、事業損失補償、工事対応等で適宜対応している。

・(委員) 神戸川拡幅部の地盤沈下については、対策を検討と記載されているが、具体的な対策を示すべきではないか。

→当地域は約 40m にわたる軟弱地盤層があるため、放水路事業を実施するにあたっては、沈下の影響を極力軽減できるように、大規模な矢板を打設するなど、設計時点から対策を行っていた。それにもかかわらず、沈下が進行している原因について現在調査中であり、原因が解明でき次第、速やかに対策の検討を行っていく。

(委員) 河床低下については、農業取水にも影響がでてくる可能性があり、重要な課題である。できる限りの対策を早い時期に検討してもらいたい。

(委員) 地盤沈下や河床低下については斐伊川を管理していく中で非常に重要な課題であり、対策をしっかりと進めてもらいたい。

(生態系ネットワーク)

・(委員) 生態系ネットワークは、現在、宍道湖が中心ということだが、中海についても展開しているのか確認したい。また、展開にあたっては、中海自然再生協議会と連携してもらいたい。

→中海についても展開を進めており、近々、生態系ネットワークの協議会にて紹介させていただく予定である。また中海自然再生協議会とも連携を図っていきたいと考えている。

(水防災意識社会の再構築ビジョン)

・(委員) 水防災意識社会の再構築ビジョンについては、つくるだけではなく、人と人を結びつけて、いざという時に機能するよう心掛けてもらいたい。

・(委員) 災害時には市町村、国とで連携し、サポート体制を構築してもらいたい。

・(委員) 的確な避難行動と記載されているが、高齢者を安全に逃げ遅れゼロにするため

に、どのようにすべきか具体的に検討してもらいたい。また、介護老人保健の施設等、お年寄りの方が暮らしている施設について、災害時にどのような状況になるか具体的なシミュレーションがあると良い。

→国交省では、県・气象台と共同で、要配慮者施設の利用者に対して、用語の説明、警報の発令タイミング等を説明する説明会を開催している。また、洪水浸水想定区域図では、場所ごとの浸水深や継続時間を示しており、浸水ナビなどのツールも揃えているところである。今後も情報提供をしていきたい。

(その他)

・(委員) 図が小さくて見にくい箇所がある。次回以降、工夫をお願いしたい。

→次回以降配慮する。

・(委員) 放水路の完成前後で、地域住民の防災意識がどのように変化しているかについて調査しているか。地元の方は施設が完成すると安心感を抱き、防災意識が低下してしまう懸念もある。

→放水路については、地域の皆様にも重要性を認識して頂いているが、完成前後の意識調査については取組めていないことから、今後参考にさせていただきたい。

・(委員) 治水だけでなく、環境や景観に関する地域の方の関心も高いと考えている。例えば、浅場整備や覆砂にあたっては、環境や景観にも配慮してもらいたい。

・(委員) 防災教育、担い手確保の取り組みについては、教員の方たちの負担がなるべくかからないよう配慮してもらいたい。

・(委員) ヨシ刈り等の活動については、一般の方の理解を深めるとともに、市民活動をされている方たちにも活動をさらに広げていただきたい。

・(委員) 高潮シミュレーションについては、斐伊川からの流出量も含めたシミュレーションを行うことで、的確な評価ができると思っている。

6. 閉会

・事務局が連絡事項を報告し、アドバイザー会議が閉会された。

以 上